

## 【活動報告】「出雲大社周辺の庭園視察」視察

庭園文化研究分科会幹事 武田隆司

出雲大社周辺に残る庭園 2 庭を視察しました。手銭家は江戸時代から明治維新の頃まで造り酒屋を営み、藩主などの宿にもなったこの地方の名家です。現在は手銭記念館を開館し、地方の美術品を公開しています。御当主の案内で記念館前の庭に加えて、隣接する家屋のしっとりとした枯山水の庭や茶庭も観ることができました。また神門通りの築 100 年の古民家を改装して飲食店を営む「駕籠石庵」では、その名の通りこの地方の庭に多く見られる「駕籠石」と呼ばれる大きな飛石を持つ庭を観ることができました。

### ○視察日

令和 3 年 6 月 13 日（日）13 時～15 時 30 分

### ○視察場所

- ・ 駕籠石庵（出雲市大社町北荒木 172-1）
- ・ 手銭記念館の庭園（出雲市 大社町杵築西 2 4 5 0-1）

### ○参加者

12 名

### 1. 手銭記念館及び手銭家庭園

手銭家は、江戸時代の初めから大社に住み、明治維新まで造り酒屋を営んでいた。藩主などの宿になることもあり、代々の当主が漢詩、俳句、茶道、華道に通じ、様々な分野の美術工芸品が保存、管理され、現在は手銭記念館として公開されている。記念館は江戸時代の米蔵、酒蔵を改装したもので、その周辺には江戸時代から庭が整備されている。現在までに建物や庭の改修が何度か行われたとのことである。

今回の視察では記念館隣の住宅の南側の書院庭園の他、建物の北側の書院庭園と茶庭も観ることができた。北側の書院庭園は出雲流庭園に近い様式で今では入手がむずかしい安来産の赤砂が敷かれ、隣接する茶庭は松江市の不昧公ゆかりの菅田庵を模した茶室を備えているものであった。

## 2. 駕籠石庵

旧大社駅から 200m北の神門通り沿いにある町家建築の古民家である。大正時代には養蚕工場であったそうで、建物と離れの間の中庭がある。この庭は建物とともに作られたものであるが、昭和 30 年ごろに改修して今のような枯山水の庭になったようである。敷き砂に飛石が打たれたシンプルな造りで、店の名にもなった大きな飛石＝駕籠石が庭の中央に配されている。右奥には立石とクスノキの大木、立灯ろうと雪見灯ろうの組み合わせなど出雲流庭園の手法が見られる庭である。この庭を眺めながらの飲食が店のセールスポイントとなっている。

庭園全景



店名の由来の駕籠石（手前の大きな飛石）



西側からの眺め

